

困難さを表す「にくい」と「づらい」は どのように使い分けられているか

— アンケート結果の分析と考察 —

鈴木基伸

要旨

動作遂行・実現の困難さを表す「にくい」と「づらい」は、機能的に重複している部分が多く、両者の使い分けがどのようにされているのかが明らかであるとは言い難い。そこで本研究では、「にくい」と「づらい」のどちらを入れても成立するような例文を作成し、それらを用いて「にくい」「づらい」の使用に関するアンケート調査を大手前大学の学生に対して行った。アンケート結果の分析を通し、①外的要因によって動作実現の不可能性が高い場合「にくい」が選択されやすい、②不可能性が低くなるに従い「にくい」が選択される割合が減る、③内的要因（「身体的痛み」「心理的抵抗感（±恥ずかしさ）」によって困難となっている場合「づらい」が選択されやすい、④「づらい」選択の割合は「にくい」ほど顕著ではない、⑤心理的抵抗感の程度大きさに応じて「づらい」がより選択されやすくなる、⑥相手に対する「申し訳なさ」が困難の要因となっている場合「づらい」が選択されやすい、⑦「身体的痛み」の場合外的要因による「けが」であるほうが「づらい」がより選択されやすくなる、ということが明らかになった。

キーワード：難易文、「にくい」、「づらい」、外的・内的要因、不可能性、心理的抵抗感

1. はじめに

日本語の、動作遂行・実現に対する難易を表す接尾辞として、「やすい」「よい」「にくい」「づらい」「がたい」がある。

- (1) このキッチンは料理がしやすい。
- (2) 美しく住みよい街をつくりましょう。
- (3) 右利きの人は左手で箸が持ちにくい。
- (4) 友人から靴を貰ったが、サイズが大きすぎて歩きづらい。
- (5) 昔は携帯電話を肩から下げていたなんて信じがたい。

これらの形式は終止形・連体形が何れも「い」で終わっていることからわかるように、形容詞的性質を持つ。したがって日本語のイ形容詞・ナ形容詞¹と同等の機能を持ち、各文における主題・主格名詞句、被修飾名詞句の属性を表す²。「やすい」「よい」は動作遂行・事態成立の「簡単さ」「容易さ」を、「にくい」「づらい」「がたい」は「難しさ」「困難さ」を表す。

- (1') このキッチン=料理がしやすい (容易さ)
- (2') 街=住みよい (容易さ)
- (3') 箸=持ちにくい (困難さ)
- (4') 靴=歩きづらい (困難さ)
- (5') 携帯電話を肩から下げていた=信じがたい (困難さ)

「容易さ」を表す形式は2つ、「困難さ」を表す形式は3つあるわけだが、ここで問題となるのが、動作遂行・実現の「容易さ」「困難さ」を表す上で、発話者にとってどの形式が選択され、適切だと感じられるかということである。「容易さ」を表す「やすい」「よい」に関して言えば、「よい」が選択される(用いられる)ケースは「にくい」に比べ圧倒的に限られており、どちらを使ったほうが適切かという問題が生じることはまれである³。一方「困難さ」を表す「にくい」「づらい」「がたい」に関しては、「がたい」が他の2形式に比べ、「絶対にできない」「したくない」という不可能・拒否の意味が強く表されるため⁴、「がたい」が使用される状況は限られているといえる。しかしながら「にくい」「づらい」は意味的に重複している部分が多く、両者の使用を

1 イ形容詞、ナ形容詞は国文法における形容詞、形容動詞のことを指す。

2 鈴木(2014)参照。

3 「よい」が用いられる例として、「食べよい」「住みよい」「歩きいい」などがあるが、「やすい」ほど一般的ではなく、生産性も低い。

4 日本語記述文法研究会(2009)によれば、「がたい」は、「意志動詞に付加され、動作の実現がきわめて困難であることを表す」とし、以下のような例を挙げている。

(i) 田中さんが会社を辞めるなんて信じがたい。

(ii) 鈴木さんの最近の行動はどれも理解しがたい。

この場合、「信じがたい」「理解しがたい」は、「信じられない」「理解できない」という不可能の意味に近い。

困難さを表す「にくい」と「づらい」はどのように使い分けられているか

截然と分けることは困難だといえる。例文（3）における「にくい」を「づらい」に、例文（4）における「づらい」を「にくい」に置き換えても大きな意味の違いは生じない。

（6）右利きの人は左手で箸が持ちづらい。

（7）友人から靴を貰ったが、サイズが大きすぎて歩きにくい。

先行研究において両者の意味の違いについての言及は多くあるが（森田 1977、三木 2004、日本語記述文法研究会 2009など）、その意味的差異が明確であるとは言いがたく、実際の使用に際して「どちらでもよい」と判断されることが多い。そこで筆者（鈴木⁵）は大手前大学の学生に対し、文脈によって「にくい」「づらい」のどちらを用いるのが適切であると感じるか、もしくは「どちらでもよい」と感じるのかについてのアンケート調査を行った。本稿ではそのアンケート結果を通し、どのような状況（文脈）において「にくい」「づらい」どちらの形式が選択されるのかについて考察を行う。

2. 先行研究概観と本研究の目的について

森田（1977）は、「にくい」の意味について以下のように述べている。

（8）動詞に付いて、その作用・動作・行為がスムーズに行われることがむずかしい状態である意味を添える。（森田 1977：366）

また、「にくい」に前接する動詞が無意志動詞や自然現象の動詞がくることから、「客観的な困難を表す」とし、さらに、「客観的ということは、対象側に困難を生み出す原因・理由がある場合が多い」としている。また、対象側に原因があることから、「にくい」の状況は「マイナス評価の状況」である場合が多いと述べている（森田 1977：366）。

また森田（1977）は「づらい」について以下のように述べている。

（9）「～づらい」は「辛い」で、肉体的理由に原因することが多い。「足に豆ができて歩きづらい」「口にできものがあって食べづらい」など。精神的理由

5 総合文化学部講師

から行為の遂行にブレーキの掛かる場合にも用いられる。「対戦相手が先輩なので、どうも攻めづらくてしょうがない」など。主として肉体的、精神的理由から困難さを覚えるということは、本人の意識としては行おうとしながら思うにまかせないというもどかしさがあり、と同時に、意志にかかわりのない不可抗力の状況に基づく困難表現でもあり、マイナス評価となる。」 (森田 1977 : 367)

三木 (2004) は、「づらい」が使用されるケースが増えていることに言及しつつも、「にくい」と「づらい」の差は歴然であると述べている。また、「づらい」は一般的に非対格自動詞 (非意志動詞) とは共起しないとされるが、人や薬剤によってある程度制御可能である場合、「づらい」の使用が認められるケースがあるとし、以下のような例を挙げた。

- (10) 尿が出づらい。病気が治りづらい。静電気が起こりづらい。汚れが落ちづらい。電波が届きづらい。ほこりがはいたりづらい。足が滑りづらい。差が生じづらい。イメージが湧きづらい。下半身の脂肪が取れづらい。有利な性質が進化しづらい。メールが文字化けしづらい。不正が発覚しづらい。この有機物が分解しづらい。その塗料が色落ちしづらい。
- (三木 2004 : 128)

これらが可能となるのは「づらい」の主語名詞句が非対格自動詞と共起する際に「内在的コントロール」が求められるからであるとし、「づらい」と「にくい」の違いを以下のように記述した。

- (11) 「～づらい」：経験者自身のことが原因で引き起こされる能動的苦痛・困難を表す。
「～にくい」：経験者以外のことが原因で引き起こされる受動的苦痛・困難を表す。
- (三木 2004 : 140f)

日本語記述文法研究会 (2009) は、「にくい」と「づらい」について以下のように述べている。

- (12) 「(し)にくい」は意志動詞にも無意志動詞にも付加され、変化や動作の実現において何らかの困難さという性質をガ格の名詞がもつことを、客観的に

困難さを表す「にくい」と「づらい」はどのように使い分けられているか

表す。 (日本語記述文法研究会 2009: 146)

- (13) 「(し)づらい」は意志動詞に付加され、心情や身体など主体のもつ内的な理由により、動作の実現や持続に困難さがあることを表す。

(日本語記述文法研究会 2009: 148)

先行研究を概観すると、「にくい」と「づらい」の違いにおいて共通するのは、困難さの要因が外的か内的かという点に集約できる。外的とは、動作主を取り巻く環境や対象物、使用する道具などによって起因するものであり、内的とは動作主自身が抱える問題であるといえるだろう。このように困難さの要因における外的・内的の違いが「にくい」と「づらい」には見られるわけだが、それによって両者を完全に使い分けられるわけではない。既に述べたように、「にくい」と「づらい」を入れ替えても意味の違いに変化が出にくい場合もあることは事実である。また、外的要因、内的要因が具体的にどのような状況を表すのかについて、詳細な記述がされているとはいえない。つまり、外的・内的要因をさらに細分化して分析することが必要だと思われる。さらにこれまでの研究において、特定のコンテキストを提示し、「にくい」と「づらい」のどちらを選択するかという、現代日本語における言語使用状況の調査というものは行われていないようである。そこで本研究では、「にくい」「づらい」が選択される特定の状況（外的・内的要因）を想定した例文を用いてアンケート調査を行い、「にくい」「づらい」の言語使用状況の傾向を探ること目的とする。またそれと同時に、「にくい」「づらい」の使い分けの基準となるものについての考察を行う。

3. アンケート対象者

アンケートの対象としたのは、著者が大手前大学において2～4年生向けに開講している講義（「日本語演習」「日本語学研究」「日本語のしくみ」「日本語と方言」）の受講者である。アンケートは内容の異なる2種類（アンケートA・アンケートB）を用意し、アンケートAは「日本語演習」の受講生に対して、アンケートBは「日本語学研究」「日本語のしくみ」「日本語と方言」の受講生に対して実施した。アンケートAの回答者は48人、アンケートBの回答者は249人であった。

4. アンケート内容

アンケートに使用した例文は、困難さの要因が外的であるもの、内的であるものをランダムに配置した。アンケートA、アンケートBはそれぞれ36例ある。その内容

を以下に示す。

アンケート A

1. 爪を切ったばかりなので、(ジュースの) 缶が開け ()。
2. 指先をけがしてしまい、痛くて (ジュースの) 缶が開け ()。
3. 駅前は人が多くて歩き ()。
4. 砂浜は足を取られて歩き ()。
5. 足に豆ができてしまい、痛くて歩き ()。
6. すでに10万円借りている友達にもう10万貸してくれとは言い ()。
7. 友達に漫画をたくさん貸しているが、返してくれとは言い ()。
8. この世は税金も高く、少子高齢化で生き ()。
9. 一人で焼肉屋には行き ()。
10. 駅前は駐車場が少なく、あっても駐車料金が高いので、車では行き ()。
11. この歌はキーが高くて歌い ()。
12. 私は音痴なので、人前では歌い ()。
13. この車は大きすぎて運転し ()。
14. この道路は路上駐車が多いので運転し ()。
15. この道はまがりくねっていて運転し ()。
16. 現代文は数学より教え ()。
17. 外国人に日本語の「わび」「さび」の意味は教え ()。
18. 業務用スーパーは何でも安い、量が多いので買い ()。
19. 痔の薬は(恥ずかしくて) 買い ()。
20. ウェットスーツはゴワゴワしていて慣れないうちは着 ()。
21. 熱帯植物は寒い場所では育て ()。
22. さんまは骨が多くて食べ ()。
23. ダイエット中なので脂っこいものは食べ ()。
24. ダイエット中の友達の前では、バクバクと食べ ()。
25. ドクダミ茶は苦味が強くて飲み ()。
26. 粉薬は飲み ()。(=なかなか飲みこめない)
27. 新しく買ったスマートフォンは大きすぎて使い ()。
28. 新しく入ったアルバイトの子は文句ばかり言うので使い ()。
29. 旅館のまくらはたいてい高すぎるので寝 ()。
30. 夏は暑くて虫も多いので寝 ()。
31. この説明書は複雑すぎてわかり ()。

困難さを表す「にくい」と「づらい」はどのように使い分けられているか

32. 太郎は表情がほとんど変わらないので、何を考えているのかわかり（ ）。
33. 最近は忙しくて、自分の時間を作り（ ）。
34. 社会人になると、なかなか人と知り合えないので、恋人を作り（ ）。
35. 太郎の字は、小さすぎて見（ ）。
36. 映画館の最前列はスクリーンが近すぎて逆に見（ ）。

アンケート B

1. 虫歯ができてしまい、歯が痛くて噛み（ ）。
2. ぎっくり腰になってしまい、痛くて座り（ ）。
3. 友達を傷つけてしまうので、本当のことは言い（ ）。
4. お年寄りにとって、3階建ての住宅は住み（ ）。
5. 高級ブランド店は敷居が高くて入り（ ）。
6. USJ は平日でも人が多いので行き（ ）。
7. 傘をさしたままでは自転車に乗り（ ）。
8. 運動音痴なので、人前では踊り（ ）。
9. この携帯はバッテリーがもう限界だが使い慣れているので変え（ ）。
10. プレゼントとしてもらったものは、使わなくなっても捨て（ ）。
11. 寝違えてしまって、後ろを向き（ ）。
12. 日本独自の「もったいない」という概念は留学生に教え（ ）。
13. おいしそうなケーキだが、1個600円もするので買い（ ）。
14. 自作のポエムは恥ずかしくて人に見せ（ ）。
15. 私は背が低いので、高いところにあるものが取り（ ）。
16. けがをして歩けない友達をひとり山小屋に残して下山し（ ）。
17. ステーキのスジの部分は硬くて食べ（ ）。
18. 自己中人とは付き合い（ ）。
19. 雨の日、革靴は滑ってしまうので歩き（ ）。
20. ウォッカはアルコール度数が高すぎて、ストレートでは飲み（ ）。
21. ミルフィーユはきれいに食べ（ ）。
22. 英語のリスニングの音量が小さすぎて聞き取り（ ）。
23. 大好きな恋人に、太っている頃に撮った昔の写真は見せ（ ）。
24. この鉛筆は短すぎて書き（ ）。
25. 唇がひび割れしてしまい、痛くて喋り（ ）。
26. 授業中質問したいが、恥ずかしいので手をあげ（ ）。
27. 鞆を両手に持っているので、ドアが開け（ ）。

28. この図書館はいつもぎわついでいて、勉強し（ ）。
29. この辺りは地盤がゆるく、高層ビルが建て（ ）。
30. 会社は大赤字だが、社員に会社を辞めてくれとはい（ ）。
31. 冬は手が乾燥して新聞がめくり（ ）。
32. 薬局で水虫の薬は買い（ ）。
33. この本は難しい言葉ばかりで読み（ ）。
34. 携帯電話の料金プランは複雑すぎてわかり（ ）。
35. テレビ台の後ろやタンスの隙間は掃除し（ ）。
36. お腹いっぱいだが、友達のお母さんが作ってくれた晩御飯なので、残し（ ）。

例文は何れも「にくい」「づらい」のどちらかが入るよう、動作の遂行・実現が困難な状況にあることが文脈からわかるようになっている。回答者にはそれをふまえ、「にくい」「づらい」のどちらを用いた方がより適切であるかを答えてもらった。また、どちらでも大きな違いがないという場合のために、「どちらでも」という選択肢も用意した。

各例文はそれぞれ困難な状況を構成している要因が異なる（外的・内的）。以下ではその「困難さ」の要因とそれに対応している例文を提示する。さらに各例文における「にくい」「づらい」「どちらでも」の回答集計結果を示し、それらの傾向について述べる。

5. 困難さの要因の種類と回答傾向

5.1. 外的要因

5.1.1. 動作遂行能力の欠如

動作を遂行する上で必要となる能力や条件が不足または欠如しているため、動作が困難となる場合を示した例である。それらに対する「にくい」「づらい」「どちらでも」の回答数の集計結果を以下に示す。アンケート A は A、アンケート B は B と表示し、「A-01」は、アンケート A の例文 1 であることを意味する。また、「にくい」と「づらい」の回答数で高い方の数値に下線をひいた。

これらは何れも外的・客観的要因による困難さである。そしてどの例文においても「にくい」が「づらい」を上回る結果となった。A-01は爪を切ったことによってジュースの缶を開けるといふ能力が失われている状態にある。A-33は忙しさによって「自分の時間」を作ることができなくなっている。A-34は人と知り合う機会が社

困難さを表す「にくい」と「づらい」はどのように使い分けられているか

表1. 「動作遂行能力の欠如」の集計結果

番号	例文	にくい	づらい	どちらでも
A-01	爪を切ったばかりなので、(ジュースの) 缶が開け	28	8	12
A-33	最近は忙しくて、自分の時間を作り	35	11	2
A-34	社会人になると、なかなか人と知り合えないので、恋人を作り	33	12	3
B-15	私は背が低いので、高いところにあるものが取り	111	90	46
B-27	鞆を両手に持っているので、ドアが開け	129	94	26
B-31	冬は手が乾燥して新聞がめくり	160	68	20

会人という社会的立場によって失われている。B-15は身長の高さによって、身長から見た相対的な高さに対して手の届く範囲が限定されている。B-27は両手に鞆を持っていることによって、物を持つという能力が失われている。B-31は手の乾燥によって「新聞をめくる」という行為が阻害されている。「にくい」の選択数を「づらい」の選択数で割った倍数値を降順に示す。

表2. 困難さの要因と「にくい」の倍数値

番号	困難さの要因 [動詞]	倍数 (少数第2位を四捨五入)
A-01	爪の短さ [(缶を) 開ける]	3.5
A-33	忙しさ [(時間を) 作る]	3.2
A-34	出会いの少なさ [知り合う]	2.8
B-31	手の渇き [(新聞を) めくる]	2.4
B-27	両手の不自由さ [(ドアを) 開ける]	1.4
B-15	背の低さ [(ものを) 取る]	1.2

「爪の短さ」を要因とする A-01が最も差が大きかった。「にくい」の選択数が「づらい」の約3.5倍であり、非常に大きな差だといえる。また「忙しさ」が阻害要因となっている A-33も約3.2倍であり、「にくい」の選択が「づらい」を大きく上回っているといえる。そして B-34の「出会いの少なさ(約2.8倍)」、B-31の「手の渇き(約2.4倍)」が続いた。B-27「両手の不自由さ」は約1.4倍、B-15の「身長の高さ」は約1.2倍となり、「にくい」の選択との差はあまりなかった。

5.1.2. 使用する道具の不都合

特定の動作遂行時に必要となる道具に不都合が生じている場合、その動作遂行は困難になる。それらの「道具の不都合」が動作遂行・実現の阻害要因となっている例で

表3. 「使用する道具の不都合」の集計結果

番号	例文	にくい	づらい	どちらでも
A-13	この車は大きすぎて運転し	21	16	11
A-27	新しく買ったスマートフォンは大きすぎて使い	22	16	10
A-29	旅館のまくらはたいてい高すぎるので寝	27	14	7
B-24	この鉛筆は短すぎて書き	140	77	30

ある。

5.1.1節における「動作遂行能力の欠如」と同様、何れも「にくい」の選択数が「づらい」を上回った。A-13は車の大きさ、A-27はスマートフォンの大きさ、A-29はまぐらの高さ、B-24は鉛筆の長さが困難さの要因となっている。「づらい」に対する「にくい」の倍数を降順に示す。

表4. 困難さの要因と「にくい」の倍数値

番号	困難さの要因 [動詞]	倍数 (少数第2位を四捨五入)
A-29	枕の高さ [寝る]	1.9
B-24	鉛筆の長さ [書く]	1.8
A-13	車の大きさ [運転する]	1.3
A-27	スマートフォンの大きさ [使う]	1.3

「枕の高さ」による寝ることの困難さにおいて (A-29)、最も差が大きく表れる結果となった (約1.9倍)。次いで A-24の「鉛筆の長さ」を原因とする「書きにくさ」が約1.8倍となった。「車の大きさ (A-13)」「スマートフォンの大きさ (A-27)」はほぼ同じ倍数 (約1.3倍) を示した。

5.1.3. 環境的要因

動作主や使用する道具に何ら欠陥はないが、当該の動作を遂行する際の環境が物理的な阻害要因となり、困難さが生じている例である。

14個中、12個の例文において「にくい」が「づらい」を上回る結果となった。以下、「づらい」に対する「にくい」の倍数値を降順に示す。

A-21が4倍と、最も大きな数値を示した。A-21は、寒さという気候的環境の中で、それにすぐわない熱帯植物を育てることが困難であることが示されている例である。2番目に数値が大きかったのはB-29 (約1.8倍) であり、地盤のゆるさが高層ビルの建設を妨げている要因となっている例である。A-14, B-28, A-30に関しては、数値が1.1~1の間であり、「にくい」の選択数と「づらい」の選択数はほぼ同じであった。

困難さを表す「にくい」と「づらい」はどのように使い分けられているか

表 5. 「環境的要因」の集計結果

番号	例文	にくい	づらい	どちらでも
A-03	駅前は人が多くて歩き	22	17	9
A-04	砂浜は足を取られて歩き	22	17	9
A-08	この世は税金も高く、少子高齢化で生き	18	21	9
A-10	駅前には駐車場が少なく、あっても駐車料金が高いので、車では行き	29	19	0
A-14	この道路は路上駐車がが多いので運転し	21	20	7
A-15	この道はまがりくねっていて運転し	25	14	9
A-21	熱帯植物は寒い場所では育て	36	9	3
A-30	夏は暑くて虫も多いので寝	23	22	3
A-36	映画館の最前列はスクリーンが近すぎて逆に見	14	22	12
B-04	お年寄りにとって、3階建ての住宅は住み	131	94	23
B-07	傘をさしたままでは自転車に乗り	138	82	29
B-19	雨の日、革靴は滑ってしまうので歩き	128	81	39
B-28	この図書館はいつもぎわついでいて、勉強し	115	103	29
B-29	この辺りは地盤がゆるく、高層ビルが建て	138	78	31

表 6. 困難さの要因と「にくい」の倍数値

番号	困難さの要因 [動詞]	倍数 (少数第 2 位を四捨五入)
A-21	寒さ [(熱帯植物を) 育てる]	4
B-29	地盤のゆるさ [(ビルを) 建てる]	1.8
A-15	道路の形状 [運転する]	1.8
B-07	傘をさしている状態 [(自転車に) 乗る]	1.7
B-19	雨の日 [(革靴で) 歩く]	1.6
A-10	駐車場の少なさ、駐車料金の高さ [(車で) 行く]	1.5
B-04	3階建て住宅 [住む]	1.4
A-03	人の多さ [歩く]	1.3
A-04	砂浜 [歩く]	1.3
A-14	路上駐車の多さ [運転する]	1.1
B-28	騒がしさ [勉強する]	1.1
A-30	暑さ、虫の多さ [寝る]	1

「づらい」の選択数が「にくい」を上回った例は14個中2例 (A-80, A-36) であった。A-08は税金の高さや少子高齢化という社会的環境が、A-36はスクリーンと座席の近さという距離的關係が阻害要因となっている例である。「にくい」に対する「づらい」の倍数値を降順に示す。

A-36が約1.6倍となり、A-08 (約1.2倍) を上回った。

表7. 困難さの要因と「づらい」の倍数値

番号	困難さの要因 [動詞]	倍数 (少数第2位を四捨五入)
A-36	スクリーンとの近さ [見る]	1.6
A-08	税金の高さ、少子高齢化 [生きる]	1.2

5.1.4. 対象物に起因する場合

動作の対象物に阻害要因が備わっており、そのせいで困難さが感じられる場合である。

19例中18例において「にくい」の選択が「づらい」を上回る結果となった。「づらい」選択の「にくい」に対する倍数値は以下の通りである。

数値が最も大きかったのはA-32であり、表情を読み取ることの困難さが示された

表8. 「対象物に起因する場合」の集計結果

番号	例文	にくい	づらい	どちらでも
A-16	現代文は数学より教え	31	9	8
A-17	外国人に日本語の「わび」「さび」の意味は教え	36	10	2
A-18	業務用スーパーは何でも安い、量が多いので買い	29	12	7
A-20	ウェットスーツはゴワゴワしていて慣れないうちは着	22	17	9
A-25	ドクダミ茶は苦味が強くて飲み	23	21	4
A-26	粉薬は飲み	27	14	7
A-28	新しく入ったアルバイトの子は文句ばかり言うので使い	23	18	7
A-31	この説明書は複雑すぎてわかり	31	9	8
A-32	太郎は表情がほとんど変わらないので、何を考えているのかわかり	34	8	6
A-35	太郎の字は、小さすぎて見	21	14	13
B-12	日本独自の「もったいない」という概念は留学生に教え	146	78	24
B-17	ステーキのスジの部分は硬くて食べ	146	62	40
B-18	自己中人とは付き合い	122	95	32
B-20	ウォッカはアルコール度数が高すぎて、ストレートでは飲み	135	80	34
B-21	Milfューユはきれいに食べ	116	99	32
B-22	英語のリスニングの音量が小さすぎて聞き取り	122	88	39
B-33	この本は難しい言葉ばかりで読み	97	116	35
B-34	携帯電話の料金プランは複雑すぎてわかり	145	72	32
B-35	テレビ台の後ろやタンスの隙間は掃除し	131	89	29

困難さを表す「にくい」と「づらい」はどのように使い分けられているか

表9. 困難さの要因と「にくい」の倍数値

番号	困難さの要因 [動詞]	倍数 (少数第2位を四捨五入)
A-32	表情 [わかる]	4.3
A-17	「わび」「さび」 [教える]	3.6
A-16	現代文と数学 [教える]	3.4
A-31	複雑さ [わかる]	3.4
A-18	量の多さ [買う]	2.4
B-17	硬さ [食べる]	2.4
B-34	複雑さ [わかる]	2
A-26	粉薬 [飲む]	1.9
B-12	「もったいない」 [教える]	1.9
B-20	アルコール度数の高さ [飲む]	1.7
A-35	字の小ささ [見る]	1.5
B-35	隙間 [掃除する]	1.5
B-22	音の小ささ [聞き取る]	1.4
A-20	ゴワゴワさ [着る]	1.3
A-28	新人バイト [使う]	1.3
B-18	自己中 [付き合う]	1.3
B-21	Milfューユ [食べる]	1.2
A-25	苦味 [飲む]	1.1

例であった。「づらい」に対する倍数が約4.3であり、極めて高い数値であるといえる。これと同様に高い数値を出したのが A-17 (約3.6倍)、A-16 (約3.4倍)、A-31 (約3.4倍) であり、A-17は「わび」「さび」という日本固有の概念を外国人に教えることの困難さであり、A-16は、現代文というやや抽象的な科目が具体的な数値を扱う数学と比較して、教えることが困難であることが表されている。

19例中1例のみにおいて「づらい」の選択が「にくい」を上回った。

表10. 困難さの要因と「づらい」の倍数値

番号	困難さの要因 [動詞]	倍数 (少数第2位を四捨五入)
B-33	難しさ [読む]	1.2

B-33は「難しい言葉」が動作主にとって理解できないために読むという行為が阻害されている。この場合、「づらい」が「にくい」を上回ったものの、数値的には約1.2倍と低かった。

5.2. 内的要因

5.2.1. 身体的痛み

何らかの動作を遂行する際、体のどこかに痛みを感じる場合には当然その行為が阻害されるため、動作主にとってそれらの行為を遂行することが困難だと感じられる。そのような肉体的、身体的な痛みが「困難さ」の要因となっている例である。

表11. 「身体的痛み」の集計結果

番号	例文	にくい	づらい	どちらでも
A-02	指先をけがしてしまい、痛くて (ジュースの) 缶が開け	16	25	7
A-05	足に豆ができてしまい、痛くて歩き	17	22	9
B-01	虫歯ができてしまい、歯が痛くて噛み	114	104	31
B-02	ぎっくり腰になってしまい、痛くて座り	98	125	26
B-11	寝違えてしまって、後ろを向き	134	88	27
B-25	唇がひび割れてしまい、痛くて喋り	98	121	30

全体の傾向として、「づらい」の選択が「にくい」を上回ったケースが多かった。「づらい」が「にくい」を上回ったのは A-02, A-05, B-02, B-25であり、痛みの原因はそれぞれ、「指先のけが」「足の豆」「ぎっくり腰」「唇のひび割れ」である。「にくい」に対する「づらい」の倍数値 (降順) は以下のとおりである。

表12. 困難さの要因と「づらい」の倍数値

番号	困難さの要因 [動詞]	倍数 (少数第2位を四捨五入)
A-02	指先のけが [(缶を) 開ける]	1.7
A-05	足の豆 [歩く]	1.3
B-02	ぎっくり腰 [座る]	1.3
B-25	唇のひび割れ [喋る]	1.2

「指先のけが」を原因とする A-12が最も「にくい」に対する差が大きく (約1.7倍)、「唇のひび割れ」を原因とする B-25が最も差が少なかった (約1.2倍)。

「にくい」の選択が「づらい」を上回ったのは B-01と B-11であり、それぞれ「虫歯」

表13. 困難さの要因と「にくい」の倍数値

番号	困難さの要因 [動詞]	倍数 (少数第2位を四捨五入)
B-11	寝違え [(後ろを) 向く]	1.5
B-01	虫歯 [噛む]	1.1

困難さを表す「にくい」と「づらい」はどのように使い分けられているか

と「寝違え」を原因とする痛みである。

寝違えによる首の痛みが阻害要因となっている B-11 (約1.5倍) が虫歯による歯の痛みの B-01 (約1.1倍) を上回る結果となった。

5.2.2. 心理的抵抗感 (+ 恥ずかしさ)

動作を遂行する際、人の目などを気にして恥ずかしさを感じる場合がある。そのような恥ずかしさが動作実現を困難にしている例である。

表14. 「心理的抵抗感 (+ 恥ずかしさ)」の集計結果

番号	例文	にくい	づらい	どちらでも
A-09	一人で焼肉屋には行き	26	15	7
A-12	私は音痴なので、人前では歌い	16	28	4
A-19	痔の薬は (恥ずかしくて) 買い	14	28	6
B-08	運動音痴なので、人前では踊り	78	140	31
B-14	自作のポエムは恥ずかしくて人に見せ	103	114	32
B-23	大好きな恋人に、太っている頃に撮った昔の写真は見せ	94	124	31
B-26	授業中質問したいが、恥ずかしいので手をあげ	122	93	33
B-32	薬局で水虫の薬は買い	126	93	30

5.2.1節で見た「身体的痛み」と同様、「づらい」の選択が「にくい」を上回るケースが多かった (A-12, A-19, B-08, B-14, B-23)。A-12は、歌が下手なことによって、動作主が人前で歌うと笑われたり馬鹿にされたりする可能性があり、それによって恥ずかしさが生じて「歌う」という行為が阻害されている。A-19は、購買するものが痔の薬であり、目薬や風邪薬と比較して、購入者 (動作主) がレジに持っていく際に恥ずかしさを感じやすい商品だといえよう。それゆえ「買う」という行為が困難になっている。B-08は運動することが不得意 (下手) であるため、失敗した場合恥ずかしさを感じるため「踊る」ことが難しくなっている。B-14は、「自作のポエム」という極めて個人的なものを他人に見せたくないという気持ちが行為を阻害している。B-23は、文脈から発話時には瘦せていることが含意されているが、その自分が太っていた頃の自分の姿 (写真) を恋人に見せたくないという気持ちが「見せる」ことを困難にしている。「にくい」に対する「づらい」の倍数は以下のとおりである (降順)。

A-19の「痔の薬」の倍数が2であり最も大きかった。次いで「音痴 (A-12)」「運動音痴 (B-08)」がほぼ同じで約1.8倍、「太っている写真 (B-23)」が約1.3倍となった。「自作のポエム (B-14)」は約1.1倍であり、「づらい」と「にくい」を若干上回る結果となった。

表15. 困難さの要因と「づらい」の倍数値

番号	困難さの要因 [動詞]	倍数 (少数第2位を四捨五入)
A-19	痔の薬 [買う]	2
A-12	音痴 [歌う]	1.8
B-08	運動音痴 [踊る]	1.8
B-23	太っている写真 [見せる]	1.3
B-14	自作のポエム [見せる]	1.1

「にくい」の選択数が「づらい」を上回ったのは、A-09、B-32、B-26であった。「づらい」に対する「にくい」選択数の倍数値を降順に示す。

表16. 困難さの要因と「にくい」の倍数値

番号	困難さの要因 [動詞]	倍数 (少数第2位を四捨五入)
A-09	一人で焼肉屋 [行く]	1.7
B-32	水虫の薬 [買う]	1.4
B-26	恥ずかしさ [(手を) あげる]	1.3

もっとも数値が大きかったのは A-09 (約1.7倍) の一人で焼肉屋に行くことを恥ずかしさの要因とするものであった。次いで B-32 (約1.4倍)、B-26 (約1.3倍) となった。

5.2.3. 心理的抵抗感 (一恥ずかしさ)

動作実現上物理的な問題はないが、心理的に抵抗感を感じる場合がある。この場合、恥ずかしさはないものの、相手に対する思いやりや、動作を実現させることから想定される不都合などによって動作主が心理的負担を感じ、その行為が困難なものになってしまう。

13例中9例 (A-06, A-23, B-5, B-9, B-10, B-13, B-16, B-30, B-36) において「づらい」の選択が「にくい」を上回った。「にくい」に対する「づらい」の倍数値を降順に示す。

もっとも倍数値が大きかったのは B-16 (約1.9倍) であった。B-16における阻害要因は、けがをしている友人を一人山小屋には残して行けないという、友人に対する思いやりであったり申し訳なさである。A-24もダイエットをしている友人に対して食事することに対して申し訳なさを感じているといえるが、B-16に比較してその程度が小さいといえる。そしてその場合、倍数値は約1.4となり、B-16を下回っている。また、B-10, A-23, B-05は、いずれも倍数値が約1.1~1であり、「づらい」と「にくい」の差は極めて小さい。

困難さを表す「にくい」と「づらい」はどのように使い分けられているか

表17. 「心理的抵抗感（一恥ずかしさ）」の集計結果

番号	例文	にくい	づらい	どちらでも
A-06	すでに10万円借りている友達にもう10万貸してくれとは言い	15	<u>21</u>	12
A-07	友達に漫画をたくさん貸しているが、返してくれとは言い	<u>31</u>	12	5
A-23	ダイエット中なので脂っこいものは食べ	22	<u>23</u>	3
A-24	ダイエット中の友達の前では、バクバクと食べ	<u>24</u>	17	7
B-03	友達を傷つけてしまうので、本当のことは	<u>101</u>	100	48
B-05	高級ブランド店は敷居が高くて入り	105	<u>107</u>	36
B-06	USJ は平日でも人が多いので行き	<u>149</u>	81	18
B-09	この携帯はバッテリーがもう限界だが使い慣れているので変え	90	<u>128</u>	30
B-10	プレゼントとしてもらったものは、使わなくなっても捨て	99	<u>113</u>	37
B-13	おいしそうなケーキだが、1個600円もするので買い	103	<u>115</u>	31
B-16	けがをして歩けない友達をひとり山小屋に残して下山し	76	<u>148</u>	25
B-30	会社は大赤字だが、社員に会社を辞めてくれとは言い	86	<u>124</u>	38
B-36	お腹一杯だが、友達のお母さんが作ってくれた晩御飯なので、残し	97	<u>125</u>	27

表18. 困難さの要因と「づらい」の倍数値

番号	困難さの要因	倍数（少数第2位を四捨五入）
B-16	けがをしている友人 [下山する]	1.9
A-24	ダイエット中の友達 [食べる]	1.4
B-09	使い慣れていること [(携帯を) 変える]	1.4
B-30	社員 [(辞めてくれと) 言う]	1.4
B-36	友達の母 [(晩御飯を) 残す]	1.3
B-10	プレゼント [捨てる]	1.1
A-23	ダイエット中 [食べる]	1
B-05	高級ブランド店 [入る]	1

「にくい」の選択が「づらい」を上回ったのは4例（A-06, A-07, B-03, B-06）であった。以下、「づらい」に対する「にくい」の倍数値を降順に示す。

最も差が大きかったのはA-07（約2.6倍）であった。A-07では、友人に対して漫画を返してほしいと頼むことが発話者にとって心理的な負担になっており、それが行為遂行を困難なものにしている。B-06（約1.8倍）はテーマパーク（USJ）における人の多さが障害要因になっている。A-06（約1.4倍）はすでに10万円借りている友人

表19. 困難さの要因と「にくい」の倍数値

番号	困難さの要因	倍数 (少数第2位を四捨五入)
A-07	友人 [(本を返してくれと) 言う]	2.6
B-06	人の多さ [(USJに) 行く]	1.8
A-06	友人 [(金を貸してくれと) 言う]	1.4
B-03	友人 [(本当のことを) 言う]	1

に対してさらにもう10万円貸してほしいと頼む状況が表されている。この場合、現状ある借りを増やすという点で友人に負担が増えてしまうため、友人に対して申し訳ないという感情が生じ、それが阻害要因になっている。B-03 (約1倍) は友人を傷つけることに対する懸念が行為を妨げているといえるが、この場合、数値的には「にくい」が「づらい」を上回っているとはいえ、ほぼ同数を表す結果となった。

6. 分析と考察

6.1. 外的要因

前節で提示したデータから、困難さを引き起こす要因と「にくい」「づらい」の選択傾向の結果は以下ようになる。

表20. 「にくい」と「づらい」の選択傾向

困難さの要因 (合計数)		例文数	「にくい」 > 「づらい」	「にくい」 < 「づらい」
外的	動作遂行能力の欠如	6	<u>6</u>	0
	使用する道具の不具合	4	<u>4</u>	0
	環境的要因	14	<u>12</u>	2
	対象物の不具合	19	<u>18</u>	1
内的	身体的痛み	6	2	<u>4</u>
	心理的抵抗感 (+ 恥ずかしさ)	8	3	<u>5</u>
	心理的抵抗感 (- 恥ずかしさ)	13	4	<u>9</u>

困難さの要因が外的であるの場合、何れも「にくい」をより多く選択する例が「づらい」をより多く選択する数を上回った。これは、先行研究で述べられている、「にくい」が外的要因により客観的な困難さを表すという主張と一致する。ただし、この結果が意味するのはあくまでも「にくい」がより多く選択されやすいということであり、例文によっては「にくい」選択の割合は異なる。それについて分析するため、前節で示した表 (表2・4・6・9) をまとめて提示する。

最も大きい倍数が A-32の約4.3倍である。次いで A-21 (4倍)、A-17 (約3.6倍)、

困難さを表す「にくい」と「づらい」はどのように使い分けられているか

表21. 外的要因と「にくい」の倍数値

動作遂行能力の欠如		
A-01	爪の長さ [(缶を) 開ける]	3.5
A-33	忙しさ [(時間を) 作る]	3.2
A-34	出会いの少なさ [知り合う]	2.8
B-31	手の渇き [(新聞を) めくる]	2.4
B-27	両手の不自由さ [(ドアを) 開ける]	1.4
B-15	背の低さ [(ものを) 取る]	1.2
使用する道具の不具合		
A-29	枕の高さ [寝る]	1.9
B-24	鉛筆の長さ [書く]	1.8
A-13	車の大きさ [運転する]	1.3
A-27	スマートフォンの大きさ [使う]	1.3
環境的要因		
A-21	寒さ [(熱帯植物を) 育てる]	4
B-29	地盤のゆるさ [(ビルを) 建てる]	1.8
A-15	道路の形状 [運転する]	1.8
B-07	傘をさしている状態 [(自転車に) 乗る]	1.7
B-19	雨の日 [(革靴で) 歩く]	1.6
A-10	駐車場の少なさ、駐車料金の高さ [(車で) 行く]	1.5
B-04	3階建て住宅 [住む]	1.4
A-03	人の多さ [歩く]	1.3
A-04	砂浜 [歩く]	1.3
A-14	路上駐車が多さ [運転する]	1.1
B-28	騒がしさ [勉強する]	1.1
A-30	暑さ、虫の多さ [寝る]	1
対象物の不具合		
A-32	表情 [わかる]	4.3
A-17	「わび」「さび」[教える]	3.6
A-16	現代文と数学 [教える]	3.4
A-31	複雑さ [わかる]	3.4
A-18	量の多さ [買う]	2.4
B-17	硬さ [食べる]	2.4
B-34	複雑さ [わかる]	2
A-26	粉薬 [飲む]	1.9
B-12	「もったいない」[教える]	1.9
B-20	アルコール度数の高さ [飲む]	1.7
A-35	字の小ささ [見る]	1.5
B-35	隙間 [掃除する]	1.5
B-22	音の小ささ [聞き取る]	1.4
A-20	ゴワゴワさ [着る]	1.3
A-28	新人バイト [使う]	1.3
B-18	自己中 [付き合う]	1.3
B-21	Milfューユ [食べる]	1.2
A-25	苦味 [飲む]	1.1

A-01 (約3.5倍)、A-16 (約3.4倍)、A-31 (約3.4倍)、A-33 (約3.3倍) となった。動詞に着目すると、A-32と A-31は動詞が「わかる」であり、いずれも高い数値を出していることから、動作主の理解に関する場合には「にくい」がより多く選択される傾向にあるといえる。また同様に、A-17と A-16では「教える」が使われており、「教える」という行為が教える内容によって困難になっている場合にはより多く「にくい」が選択される傾向にある。また、A-21、A-01、A-33などから、外的な要因によって当該の動作が極めて困難な場合、「にくい」が選択される傾向にあることがわかる。

倍数を見ると、最大の約4.3倍から約1倍までと大きな差が見られるが、これらの倍数の変化はどのような理由から生じているのだろうか。数値の高いものと、低いものを比較してみると、高いものはその動作を実現させることが困難であるケースが多い。上述した A-32, A-21, A-17, A-01, A-16, A-31, A-33は、何れも実現が困難であり、「にくい」の代わりに「できない」を用いても意味の大きな違いは生じない。

- (14) 太郎は表情がほとんど変わらないので、何を考えているのか {わかりにくい/わからない}。
- (15) 熱帯植物は寒い場所では {育てにくい/育てられない}。
- (16) 外国人に日本語の「わび」「さび」の意味は {教えにくい/教えられない}。
- (17) 爪を切ったばかりなので、(ジュースの) 缶が {開けにく/開けられない}。
- (18) 現代文は数学より {教えにくい/*教えられない}。
- (19) この説明書は複雑すぎて {わかりにくい/わからない}。
- (20) 最近は忙しくて、自分の時間を {作りにくい/作れない}。

(18) は比較構文をとっているため可能形を用いると非文法的になるが、それ以外については「にくい」によって不可能に近い意味が表されている。

一方、低い倍数を示した例文が示す状況は、動作の遂行・実現が困難ではあるものの、不可能とまでは言えないものである。例えば、約1.1~1倍という低い数値を示している例文に「にくい」を当てはめると以下ようになる。

- (21) この図書館はいつもざわついていて、勉強しにくい。【B-28】
- (22) ドクダミ茶は苦味が強くて飲みにくい。【A-25】
- (23) 夏は暑くて虫も多いので寝にくい。【A-30】

これらは、当該の行為を行うことが発話者によって困難だと感じられていることが表されているが、何れも実現自体は可能である。したがって、それぞれ、「勉強でき

困難さを表す「にくい」と「づらい」はどのように使い分けられているか

ない」「飲めない」「寝られない」が示すような不可能に近い意味を表しているわけではない。以上のことから、「にくい」を使用するか否かの違いは、行為実現の不可能性と関連していることがデータから導き出せる。

6.2. 内的要因

続いて、困難さの要因が内的の例について分析する。内的要因となる「身体的痛み」「心理的抵抗感（+ 恥ずかしさ）」「心理的抵抗感（- 恥ずかしさ）」においては、「づらい」がより多く選択される例が「にくい」のそれを上回った。これも、外的要因の時と同様、先行研究での記述と一致する。分析のため、前節で示した表12・15・18をまとめて以下に示す。

最大が A-19における2倍であり、「にくい」に対する「づらい」選択の差が顕著で

表21. 内的要因と「づらい」の倍数值

身体的痛み		
A-02	指先のけが [(缶を) 開ける]	1.7
A-05	足の豆 [歩く]	1.3
B-02	ぎっくり腰 [座る]	1.3
B-25	唇のひび割れ [喋る]	1.2
心理的抵抗感 (+ 恥ずかしさ)		
A-19	痔の薬 [買う]	2
A-12	音痴 [歌う]	1.8
B-08	運動音痴 [踊る]	1.8
B-23	太っている写真 [見せる]	1.3
B-14	自作のポエム [見せる]	1.1
心理的抵抗感 (- 恥ずかしさ)		
B-16	けがをしている友人 [下山する]	1.9
A-24	ダイエット中の友達 [食べる]	1.4
B-09	使い慣れていること [(携帯を) 変える]	1.4
B-30	社員 [(辞めてくれと) 言う]	1.4
B-36	友達の母 [(晩御飯を) 残す]	1.3
B-10	プレゼント [捨てる]	1.1
A-23	ダイエット中 [食べる]	1
B-05	高級ブランド店 [入る]	1

あるとは言い難いが、「づらい」がより選択される傾向にあるといえよう。したがって、この結果から、肉体的な痛みや、心理的抵抗感（± 恥ずかしさ）によって当該の行為が阻害されている場合、「づらい」がより選択されやすくなることがわかる。

恥ずかしさに関していえば、その度合いが大きければ大きいほど、またその恥ずかしさが普遍的であると考えられる場合に「づらい」がより多く選択されるようである。A-19で示された「痔の薬」を買うことは、数ある薬の中で恥ずかしさの程度が大きいといえる。また、A-12, B-08における「音痴」「運動音痴」も、友人やクラスメート、または他人にその姿を見られる可能性があるため、恥ずかしいと感じる程度は大きい。さらにこれらの恥ずかしさは人によって異なりにくいものであり、誰しもが感じる恥ずかしさであると考えられる。これらの場合それぞれ2倍、約1.8倍、約1.8倍と高い数値を示している。

一方B-23(約1.3倍)、B-14(約1.1倍)のように低い数値になるのは、太っているころの昔の写真を見せる場合や、自作のポエムを見せる場合であった。これらは恥ずかしいという感情が引き起こされる行為であるといえるが、普遍的な恥ずかしさを持つとは言えない。たとえ太っていても過去の自分を見せることに対して恥ずかしいとは感じない回答者もいるであろう。自作のポエムについても同様である。

恥ずかしさを伴わない心理的抵抗感に関して、その度合いが高ければ「づらい」が使われやすいという傾向はあるようだ。B-16は、「けがをしている友人を山小屋にひとり残すこと」が心理的抵抗感の要因となっているが、もし友人を山小屋に残した場合にはその友人が死に至る可能性もあるため、その心理的抵抗感の度合いは極めて大きいといえる。一方B-36の場合、「友人の母親の手料理を残すこと」に対する抵抗感が阻害要因となっているが、これは「山小屋」の例と比較すれば、その度合いは小さいといえる。B-16は約1.9倍、B-36は約1.3倍であり、心理的抵抗感の度合いの大きさが「づらい」選択の回答数に表れている。

心理的抵抗感に関してもう一つ言えることがある。それは、相手に対する「申し訳なさ」が「づらい」選択の要因となっているということである。恥ずかしさを伴わない心理的抵抗感が表されている例文の中で、「にくい」に対する「づらい」の倍数値が高いのは、「申し訳なさ」がその根拠となっている例が多い。B-16はけがをした友人に対して「申し訳なさ」を感じている。A-24はダイエットをしている友人に対して、B-30は自分の会社の社員に対して、B-36は友人の母親に対してである。同じ心理的抵抗感でも、「申し訳なさ」が伴わない場合、その数値は低くなっている(A-23, B-05)。

身体的痛みに関しては、約1.7倍と高い数値を示したのが「指先のけが」であり、それ以外の「足のまめ」「ぎっくり腰」「唇のひび割れ」は約1.3~1.2倍と相対的に低い数値を示している。このことから言えるのは、外的な要因によって生じた「けが」の場合、「づらい」の選択がより多くなされるのではないかということである。「足のまめ」「ぎっくり腰」「唇のひび割れ」というのは、いわば自然発生的に生じたもので

困難さを表す「にくい」と「づらい」はどのように使い分けられているか

あり、けがの範疇には入らない。よって、「身体的痛み」の中でも、外的要因によるけがの場合、それ以外の痛みと比べ、比較的「づらい」が選択される傾向にあるといえる。先行研究では、外的要因の場合「にくい」が選択されやすく、本研究におけるアンケートでも同様の結果が出た。しかしながらその外的要因が身体的痛みという内的要因に還元された場合、反対に「づらい」が選択されやすくなるのである。

7. まとめと今後の課題

本研究では、「にくい」と「づらい」の使用に関するアンケート調査を基に、両者の選択傾向を分析し、使い分けの基準について明らかにすることを目的とした。その結果、これまでの先行研究で言われているような外的要因と内的要因の違いが、「にくい」「づらい」の使い分けに大きく影響していることがわかった。ただし、何れの例文においても、どちらかの使用がゼロになるというケースはなく、「にくい」が「づらい」を上回った約4.3倍という数値が最大であり、「にくい」「づらい」の選択数がほぼ同じという例も少なからずあった。したがって、両形式の使い分けの判断基準を、普遍的に明確に規定することの難しさが改めて明らかになったといえる。

本研究における分析を通して明らかになったことを以下に示す。

(24) 【「にくい」について】

- ・外的な要因によって動作実現の不可能性が高い場合、「にくい」がより多く選択されやすい。
- ・不可能性が低くなるに従い、「にくい」が選択される割合が減る。

(25) 【「づらい」について】

- ・内的な要因（「身体的痛み」「心理的抵抗感（±恥ずかしさ）」）によって困難となっている場合、「づらい」が選択されやすい。
- ・「づらい」選択の割合は、「にくい」ほど顕著ではない。
- ・心理的抵抗感の程度の大きさに応じて、「づらい」がより選択されやすくなる。
- ・相手に対する「申し訳なさ」が困難の要因となっている場合、「づらい」が選択されやすい。
- ・「身体的痛み」の場合、外的要因による「けが」であるほうが「づらい」がより選択されやすくなる。

これらは全体の大きな傾向であり、アンケートに使用した例文について一つ一つ検

討したとは言い難い。また得られた集計結果の中で分析できていない部分も数多く残されている。本研究が提示したデータのより詳細な分析・考察は今後の課題としたい。

参考文献

- Inoue Kazuko (1978) "'Tough sentences' in Japanese." *Problems in Japanese Syntax and Semantics*, ed. by John Hinds and Irwin Howard, pp. 122-154.
- Kuroda Shige-yuki (1987) "Movement of Noun Phrases in Japanese." *Issues in Japanese Linguistics*, ed. by Takashi Imai and Mamoru Saito, pp. 229-271.
- 井上和子 (1976) 『変形文法と日本語 (上)』大修館書店.
- 加藤重広 (2008) 「語用論的に見た『可能』の意味」『富山大学人文学部紀要』38 富山大学人文学部 pp. 129-146.
- 金城克哉 (2011) 「コーパス分析に基づく『～にくい』・『～づらい』表現の研究」『留学生教育：琉球大学留学生センター紀要』8 琉球大学留学生センター pp. 19-35.
- 佐藤ちえ子 (1988) 「難易文の派生について」『文経論叢』24 弘前大学人文学部 pp. 69-88.
- 鈴木基伸 (2014) 「ヤスイ・ニクイの意味決定に関与する名詞句の意味役割」『大手前大学論集』14 大手前大学・大手前短期大学 pp. 155-170.
- 日本語記述文法研究会 (2009) 『現代日本語文法2』くろしお出版.
- 益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法—改訂版—』くろしお出版.
- 町田健 (1997) 「形容詞の意味について」『北海道大学文学部紀要』45(3) 北海道大学文学部 pp. 247-272.
- 三木望 (2004) 「『～づらい』について：自発と否定、可能の連続性」影山太郎・岸本秀樹編『日本語の分析と言語類型：柴谷方良教授還暦記念論文集』くろしお出版.
- 森田良行 (1977) 『基礎日本語文法—意味と使い方』角川書店.